

人生ハンド仏句

第38号

H. 17. 5. 1
(毎月1日発行)



心の反省

住職 谷川寛俊

毎年元旦には、「今年こそ平和な一年であって欲しい」という思いを込めて、初日の出を拝んだり、神社仏閣にお参りする方が多いと思います。前の年が天災人災等、災難の多い年であればあるほど「今年こそは」という思いは強くなります。昨年是一年を象徴する文字として「災」の字が選ばれましたが、正に国内外、災難や事件が後を絶ちませんでした。「今年こそは」と期待と希望を持って迎えた新年ですが、やはり連日テレビや新聞で報道されるニュースは、「これが心ある人間のすることだろうか」と思われる内容の犯罪や事件ばかりです。

あのJR足尾以来最大の惨事となった福知山線尼崎駅脱線事故、五百八十人の通勤、通学客らに乗せた月曜朝の快速電車は、線路を飛び越えるようにマンションに激突した。遅れを取り戻そうとしたのか、明らかに普段よりスピードを上げて制限速度七十キロのカーブに向かい、惨劇は起こったのでした。いつものように元気で「行ってきまーす!」。たまたま今日は会社で会議があるからいつもの時間より遅く家を出て、列車に乗り合わせて事故に遭遇した人。初めての海外旅行に出かける為に……。いつも子供に車で送ってもらうのに、今日に限って電車に乗った為に等々……。避けられない何かがあるとすれば、余りにもむごい惨事に巻き込まれたのです。犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りするばかりです。

結果があるからには、必ず原因があるはずですが、果たしてその原因はどこにあるのか、今後の調査を見守りそして二度とこのようなむごい事故が起きないよう教訓にして貰いたいものです。

私達は、とかく学力や能力を最優先し、生産性の向上や経済優先、目先の便利さ快適さをどこまでも追及し続け、感謝する心や足ることを知る心をいつの間にかどこかに置き忘れていっているのではないのでしょうか。そして何よりも「大いなるものに生かされている」という認識を見失っているのではないのでしょうか。そのつけが今現れているように思われて成りません。

昔はそれを「佛様」「神様」という言い方をしました。そうした生活態度の中から、感謝の気持ちや謙虚さ、もの命を尊ぶ生き方、そして絶望しそうななってもお題目によって「ぎりぎりの処は護られている」という強い安心感が、私たちの生きる大きな力となっていました。政治や福祉、或いは医療、教育といった大きな力に働きかけることも確かに必要ですが、これには限界があります。それよりもっと大切なことは、私達一人一人が自分の問題として受け止め、人任せにするのではなく、自らの心の内面を謙虚に問い直し、生きる姿勢を正しくしていくことが急務なのではないでしょうか。

それには一にも二にも、**大聖人様の教えと法華経、お題目の信仰に徹すること**が、一番の近道であります。

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoiyama108/>

顔のお化粧、朝の十分 心のお化粧、これ一生